

平成26年度 小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会
第1回 利用専門部会 議事概要

平成26年10月27日（月）14:00～15:30
小笠原村地域福祉センター会議室

- 1 傘山、躑躅山ルートにおけるオガサワラノスリのモニタリング結果について
 - ・ノスリのモニタリングは、繁殖場所や個体数増減などを含めた調査方法等の見直しが必要と考えられ、そのためにも中間報告を行うべきではないか。

- 2 聳島指定ルートについて
 - ・試行期間中に利用客の意向を確認するために行っていたアンケートを廃止するとしても、必要に応じて何らかのアンケートを行うことを検討してはどうか。
 - ・試行期間が終了し、聳島指定ルートの運用がスタートしたから終わりということではなく、自然再生と商業利用の両面からの意見やデータを集約しつつ、数年後には議論を行うということではないか。
 - ・資料中の「聳島の特殊性」、「ルートの清掃」、「聳島の利用時間は3時間以内」の表現について、追加説明や修正をお願いしたい。

- 3 小笠原諸島森林生態系保護地域の保全と利用に関する調査の概要について
(平成26年度事業概要)
 - ・母島の桑の木山では、過去に薬注枯殺したアカギが倒木落枝等の危険な状態にあり、今年度事業でかなり伐採除去されたがまだ危険なものが残っているので、来年度事業で対応してもらいたい。
 - ・世界自然遺産の森を体感できるモデル地区を設定することで、観光も自然保護も盛り上がるコラボレーションをしていくというイメージを共有できるようにしてはどうか。
 - ・整備に当たっては、看板等は景観上過剰設置とならないようにする必要。また、遊歩道は年配者が安全に歩行できるように整備してほしい。
 - ・最近では外国人の観光客が増加しており、日本人だけではなく広く世界の人に世界自然遺産の森を体感できるような取組みが必要という共通認識の中で進めていく必要がある。